

高校生が縄文遺跡でガイドを体験し、文化財の活用方法を考えました!

地域の活性化と、将来的に文化財の保存・活用に関わることができる若い世代の人材育成を図るため、今年度より、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である縄文遺跡で活動しているボランティア団体にご協力いただき、高校生が遺跡でガイドを体験し、その成果を基に文化財の活用方法を提案してもらった「高校生縄文案内人養成事業」を実施しています。 ※人は青森県とっての「財(たから)」であることを基本的な考え方としており、「人材」を「人材」と表記しています。

縄文遺跡での案内人体験

文化財について基本的な講座を受講した後、縄文遺跡でガイドを体験しました。

講座の様子

七戸町

八戸市

つがる市

ガイド体験の様子

二ツ森貝塚

是川縄文館

田小屋野貝塚

生徒アンケートより

- ・ガイドを引き継いでいきたい!
- ・魅力発信を続けたい!

縄文案内人フォーラム

ガイド体験の成果や活用方法を発表し、講師やボランティア団体の方とパネルディスカッションを行いました。

七戸町

八戸市

つがる市

高校生が考えた活用(魅力発信)案

- YouTubeで動画配信
- 遺跡で婚活イベントを開催
- 縄文人なりきりイベントを開催
- 遺跡で縄文生活体験
- 遺跡にインスタ映えスポットを作る
- コラボ絵馬を作る
- 縄文を題材にしたゲームやアニメを作る
- 縄文テーマのアイドルをプロデュース
- 縄文テーマの宿泊施設を作る
- 縄文土器型のお風呂を作る
- QRコードARを活用
- 縄文テーマの犬小屋を作る

令和2年度は、青森市・弘前市・外ヶ浜町で実施します。ご参加お待ちしております!

文化財保護課 TEL.017-734-9920 <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/koukousei-jomon-annainin.html>

おしらせ

県教育委員会では、より良い紙面づくりのため、皆様からのご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。県教育庁教育政策課情報広報グループ広報担当(TEL.017-734-9868)までご連絡ください。

三内丸山遺跡センターからのおしらせ

- ◆冬季企画展「三内丸山ムラが一番おきかかったころ」縄文時代前期～中期の1,700年もの長きにわたって営まれた三内丸山ムラが一番大きくなった、中期の中頃にスポットを当てます。
- 開催期間/令和2年1月18日(土)～3月15日(日)
- 時間/9:00～17:00(最終入場16:30)
- 場所/企画展示室
- 観覧料/遺跡を含む常設展の入場料(大人410円、高校生・大学生200円、中学生以下無料)で観覧できます。
- ギャラリートーク/専門職員による展示解説 会期中の毎週土・日曜日、祝日 13:30～(30分程度) 3月14日(土)は遺跡報告会後15:30から実施

◆三内丸山遺跡報告会

今年度の発掘調査や特別研究の成果を報告します。第1部 令和元年度三内丸山遺跡発掘調査成果報告 第2部 特別研究成果報告

- ①「三内丸山遺跡・大人の墓等土質遺構の保存活用を目的とする復元的展示材料の開発研究」
- ②「円筒土器文化における集落の実態をさぐる一時期差・地域差・存続期間等の比較研究」
- 日時/令和2年3月14日(土)13:30～15:30
- 場所/縄文シアター ※参加料は無料、事前申込み不要

三内丸山遺跡センター TEL.017-766-8282 <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/>

近代文学館 作家×スポーツ展

今年度は東京オリンピック・パラリンピックの年です!そこで、スポーツに熱中した作家たちのエピソードや、青森ゆかりの作家たちがスポーツをどのようにみて、書いたのかを紹介します。スポーツが好きな人も、本が好きなのもぜひ来て下さいね。入場は無料です。

- 開催期間/令和2年2月22日(土)～5月17日(日) (毎月第4木曜日、奇数月第2水曜日、4月1日(水)は休館)
- 時間/9:00～17:00
- 場所/青森近代文学館企画展示室(県立図書館2階)

青森近代文学館 TEL.017-739-2575 <http://www.plib.pref.aomori.lg.jp/viewer/info.html?id=30>

青森県立郷土館 土曜セミナー

郷土館職員やゲストキュレーター(客員学芸員)が、郷土の歴史や文化、自然などについて楽しく、わかりやすくお話しする講座です。土曜日に開催し、どなたでも受講できます。

- 日時/令和2年2月22日(土)「青森県の鳥獣図」 2月29日(土)「縄文遺跡群の保存と活用」 3月7日(土)「学校では教えてくれない青森県のあんなこと、こんなこと」
- 時間/各回13:30～15:00
- 場所/青森県立郷土館小ホール
- 参加料/無料(申込み不要)

青森県立郷土館 TEL.017-777-1585 FAX.017-777-1588 <https://www.kyodokan.com>

県立図書館からのおしらせ

- ◆おしえて先生!知るしるする探検隊 科学の実験やいろいろな仕事の人の交流、スポーツなどの体験、本の紹介などを行います。
- ◆おはなし会 読み聞かせボランティアと図書館職員による絵本の読み聞かせやブックトーク、子どもたちからリクエストされた絵本を紹介します。
- 日時/令和2年2月22日(土) 14:00～14:30
- 日時/令和2年3月14日(土) 14:00～14:30
- 場所/児童閲覧室おはなしコーナー
- 場所/児童閲覧室おはなしコーナー

青森県立図書館 TEL.017-739-4211 <http://www.plib.pref.aomori.lg.jp/> 青森県立図書館

教育広報あおもりけん

Vol.55及び増刊号の訂正について

2019年12月発行の「教育広報あおもりけん」Vol.55及び増刊号の掲載記事に誤りがありましたので、お詫言ひて下記のとおり訂正いたします。

- [Vol.55]11ページ「令和元年度いじめ防止キャンペーン」掲載記事「優秀賞受賞作品の漢字(誤)「我儘だめ! 助け求める 声上げて!」(正)「我儘だめ! 助け求める 声上げて!」
- [増刊号]4ページ「平成30年度いじめ防止標語コンクール」優秀賞受賞作品の受賞者氏名(誤)「むつ市立大平中学校 3年 笠嶋 怜」(正)「むつ市立大平中学校 3年 笠嶋 怜」

2020.2 Vol.56

令和2年2月発行

編集・発行/青森県教育委員会 TEL.030-8540 青森市長町1丁目1番1号 TEL.017-734-9868

北海道・北東北の縄文遺跡群を世界遺産に

北海道・北東北の縄文遺跡群 -JOMON JAPAN- <http://jomon-japan.jp>

青森県教育委員会ホームページアドレス ⇒ <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/main.html>

平成30年度 いじめ防止標語コンクール

優秀賞は6作品あり、毎号紹介しています

優秀賞作品 前向いて私がいるよ だいじょうぶ

八戸市立城下小学校 3年 橋 如花 (※受賞当時の学校と学年です)

令和元年度 学びの質を高める授業改善プロジェクト事業

新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指して

県教育委員会では、新学習指導要領の全面実施に向けて、教員の授業力の向上と児童生徒の資質・能力の育成を目的として、「学びの質を高める授業改善プロジェクト事業」を今年度から実施しています。今年度の取組について一部を紹介します。

1 「学びの質を高める授業スタンダード」の作成・配布

県教育委員会では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実現に向け、先生方の手引きとなる「学びの質を高める授業スタンダード」を小・中学校合わせて10教科分をとりまとめ冊子として作成し、県内公立小・中学校の教員に配布します。

3 学校図書館を活用した授業研修会の開催

○学校図書館の活用を推進しています!!

新学習指導要領では、児童生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実させるために、学校図書館を活用することが示されています。県教育委員会では、学校図書館の機能を活用し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の実現に向け、学校図書館の活用を推進しています。

令和元年10月11日に西目屋村立西目屋小学校で開催した公開授業では、図書資料の効果的な活用の仕方や交流場面での活動の工夫など、授業改善につながる様々な提案がありました。

2 ブラッシュアップ公開研究発表会の開催

「学びの質を高める授業スタンダード」を基にした公開授業を地区ごとに開催し、参加した先生方による研究協議、学力向上支援委員を委嘱している外部の有識者による講演を行いました。県全体で9回開催し、延べ450名の先生方が参加しました。

4 学びの質を高める授業改善フォーラムの開催

令和元年11月18日に県総合学校教育センターで「学びの質を高める授業スタンダード」を基にした授業を公開するとともに、学力向上支援委員をはじめとする有識者によるシンポジウムを実施しました。県内の小・中・高等学校の先生方や教育委員会関係者、大学生など約340名が参加しました。

本県の学力向上支援委員

- 早稲田大学 藤井 千春 教授 ●関西大学 黒上 晴夫 教授 ●弘前大学 中野 博之 教授
- 宮城教育大学 児玉 忠 教授 ●國學院大学 田村 学 教授

令和元年度 ICT教育推進事業

ICT教育公開授業・小学校プログラミング教育普及啓発地区研修会を開催しました

県教育委員会では、今年度から教員のICT活用指導力の向上及び小学校におけるプログラミング教育の普及と啓発に向けた取組を行っています。今年度県内で実施したICT教育公開授業と小学校プログラミング教育普及啓発地区研修会の様子を紹介します。

ICT教育公開授業

県内の公立小・中学校教員を対象にICT教育を推進するリーダーの育成とICTを活用した教育の普及啓発を目的として、県内6会場において公開授業を開催しました。

風間浦村立 風間浦小学校 ●5、6年生体育「表現活動」では、タブレットで撮影した映像を確認しながら、ダンスを作る授業が行われました。	五所川原市立 五所川原第二中学校 ●1年生数学「変化と対応」では、反比例について、タブレットを用いてお互いの意見を比較する授業が行われました。	蓬田村立 蓬田中学校 ●2年生社会「首都・東京と各地との結びつき」では、タブレットを用いて説明内容を効果的にまとめる授業が行われました。
藤崎町立 藤崎小学校 ●6年生算数「比例と反比例」では、タブレットを用いて表のきまりを見つけ、計算の仕方を考える授業が行われました。	八戸市立 三条中学校 ●3年生数学「円と中心角」では、タブレットを用いて自分の解き方を他の生徒に伝える授業が行われました。	十和田市立 東中学校 ●3年生数学「円周上の角の大きさ」では、タブレットを用いた発表や話し合い活動が行われました。

小学校プログラミング教育普及啓発地区研修会

県内の公立小学校教員を対象に小学校プログラミング教育を推進するリーダーの育成と小学校プログラミング教育の普及啓発を目的として、県内6地区において研修会を開催しました。

研修会では、スクラッチやレゴブロックを用い、参加した先生方がプログラミング教育の指導法について熱心に学んでいました。

公開授業の様子

公開授業では、タブレット等のICT機器を活用し、友達同士が教え合い学び合う、協働的な学習活動が行われました。

研修会実施校

青森市立金沢小学校、つがる市立向陽小学校、弘前市立桔梗野小学校、六ヶ所村立千歳平小学校、東通村立東通小学校、南部町立剣吉小学校(場所:南部町立南部中学校)

プログラミング教育とは、子供たちに、プログラミングを通して、自ら意図する動きを実現するために試行錯誤する体験をさせながら、発達の段階に即して、身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付く力を身に付けさせる教育です。

「地域のチカラ」で「家庭教育支援」の体制づくりを進めています!

家庭教育はすべての教育の出発点であり、子どもが基本的な生活習慣や生活能力などを身に付けていく上で、重要な役割を果たしています。しかし、近年、共働き世帯やひとり親世帯の増加による家族構成の変化や地域における人間関係の希薄化の影響を受けて、家庭教育が困難な状況も見受けられます。そのため、**地域全体で家庭教育を支援**することが求められています。

このような中、青森県教育委員会では、家庭に対し予防的・早期対応型の支援を行う実行委員会を県内6市町村で組織し、**学校と家庭教育支援団体等の連携・協働の促進**に取り組んでいます。この実行委員会では、学校・家庭教育支援団体をはじめ、公民館や市町村福祉部局等、関係機関が連携を深めるため、連絡会議を開催しています。今回は、6実行委員会の取組の一部を紹介します。

鱈ヶ沢町実行委員会

子どもたちが木のおもちゃで遊ぶ「木育広場」を実施しました。普段はゲーム機で遊ぶ子どもも、ここでは木のおもちゃに夢中になりました。また、父親、高齢者、中学生など多くの方が参加し、楽しく交流を図ることができました。



八戸市実行委員会

小学校の参観日やバザー等の行事がある日に、校内で未就学児の預かり保育を実施しています。教育相談にも応じています。普段から活動拠点を小学校に置いているため、先生方との情報交換を密にでき、問題があった場合には素早く対応しています。



青森市実行委員会

地域の方が小中学生等と同じテーブルで「通学路の雪かきはみんな協力しよう。」「買い物の不便さは解消できる?」など、地域のこれからの考えました。世代の差はあれども同じ地域の住民同士、大いに交流も深まりました。



今別町実行委員会

子育て中のママやマタニティママを対象としたサロンを開いています。セルフマッサージ、トルネードポテトづくりなど、毎回内容は様々。スタッフは子育て相談にも応じており、安心して子育てできる環境を整えています。



野辺地町実行委員会

地域の方が小学生とともに汗を流し、中庭の整備や芋の作付け、草刈り、収穫を行うなど、互いに交流を図ってきました。写真は、収穫したじゃがいもとサツマイモの収穫祭「いもリンピック」で盛り上がりしている様子を捉えています。



佐井村実行委員会

小学校の参観日に、家庭科室で「参観日カフェ」を開きました。授業参観の前後に保護者が立ち寄り、保護者同士の貴重な情報交換の場となっています。子育てに関する悩みや学校生活上の疑問等には、先輩ママであるスタッフが相談に応じます。



令和2年3月には、市町村が主体となって、学校と家庭教育支援団体等が連携・協働した体制をつくる際の手引きとなる「家庭教育連携・協働ハンドブック」を作成し、各市町村教育委員会及び小・中学校に配布する予定です。

☎ 生涯学習課 地域連携推進グループ TEL.017-734-9890

三農発「観光・スマート農業」推進プロジェクト事業

青森県立三本木農業高等学校

近年、海外の教育旅行団から本県での学校交流活動の要望が増加する中、「生産と観光の両方を担う農業」の新しい仕組みづくりや人材育成が求められる時代が到来することを見据えて事業を推進します。具体的には、農業高校生との交流を中心とした海外の教育旅行を受け入れる「観光農業」やドローンなどの最先端技術を農業に導入し生産効率を上げる「スマート農業」などに生徒が主体となって取り組みます。

※人は青森県にとっての「財(たから)」であることを基本的な考え方としており、「人材」を「人財」と表記しています。

1 連携協議会の設立

「観光農業」「スマート農業」の実現に向けてのアドバイスや事業終了後も地域全体で継続した取組が図られる体制整備のため、地元農業関係者や関係機関等との連携により、地元農家・企業等へ成果を還元し、教育的で持続的な取組につなげます。



2 農業体験を通じた高校生「交流」プロジェクト

連携協議会を踏まえ、PR活動、海外での調査活動、交流・体験型海外教育旅行団の受入モデル開発に向けた取組を実施することで、生徒と地元農家や農業関係者との連携・協働による若い世代の人財育成や県内定着、就業意識の高揚を図ります。また、教育旅行団の受入モデル開発・実践では、三本木農業高校における高校生同士の交流や農業体験のほか、十和田西高校との連携により高校生目線による地元の自然の魅力等を巡るプランも提案します。



3 三農スマート農業プロジェクト

「スマート農業」に資するシステムの構築や普及に向けた取組を実施することで、地元農業の省力化を推進するとともに、将来、地域農業を牽引する人財育成を目指します。具体的には、ドローンを用いた地元農産物(ナガイモ、ゴボウ、ニンニク等)の生育・病害虫管理に係る実践研究を行います。また、スマート農業の普及活動として、県内農業高校生や地元農家との合同講習会も実施します。



☎ 学校教育課 高等学校指導グループ TEL.017-734-9883

「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生成成事業

高校生の視点と発想で「地域のお宝」を見つけ、「物語」として発信します!

県内12市町村の各実行委員会では、高校生が中心となって地域の食や歴史、伝統芸能、観光資源などに焦点をあてながら体験的な学びを展開し、その魅力を発信する「地域のお宝物語」の企画・実践に取り組んでいます。

高校生と地域の大人の連携・協働による2年間にわたる活動はいよいよ大詰めを迎えました。高校生が2年間の活動を通して紡いだストーリー「地域のお宝物語」は、青森県教育委員会のホームページ(下部URLまたはQRコード)で公開予定です。

実行委員会にて企画内容を検討
お宝を探す各種ワークショップ

企画内容のブラッシュアップ、実践活動
お宝の魅力を掘り下げ、情報発信につなげる

情報発信
「地域のお宝物語」完成!

活動の様子 ～「地域のお宝物語」ができるまで～

地域の名物・名所に関するアイデア出し



五所川原市実行委員会
津軽鉄道沿線の観光資源に焦点をあて、その魅力を案内
<参加高校生の所属>
五所川原商業高校

地域の名所や行事の様子取材し、「物語」の題材を収集



野辺地町実行委員会
四季折々の食や観光資源などを、お宝探しの物語として紹介
<参加高校生の所属>
青森高校、野辺地高校、八戸学院野辺地西高校

地元イベントでの活動PR



三沢市実行委員会
地元食材を用いたオリジナルバーベキューの企画・実践を通して、三沢市の魅力を発信
<参加高校生の所属>
三沢高校、三沢商業高校

「地域のお宝物語」プレゼン大会の様子
(令和2年2月1日アピオあおもりにて)



12市町村実行委員会の高校生が取り組んできた「地域のお宝物語」の実践結果を発表するプレゼン大会を開催しました。高校生が自らの視点で自分たちの住むまちの「お宝」を紹介するストーリーが次々と披露され、会場は地域活動に関心のある参加者の皆さんの熱気に包まれました。

- 参加高校生の感想**
- ・自分で考えて動くことや、人前で意見を言う力が身につきました。
 - ・身近すぎて気づかなかった地元の良さを知ることができました。
 - ・他の実行委員会の高校生の発表を見て、とても刺激を受けました。
 - ・自分たちのアイデアが形になっていくのが楽しかったです。

身近すぎて気づかない地域の魅力、あなたも掘り起こしてみませんか?

☎ 生涯学習課 企画振興グループ TEL.017-734-9889 http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/tiiki_no_otakara.html



平成31年度(令和元年度)

「全国学力・学習状況調査」・「県学習状況調査」の結果について

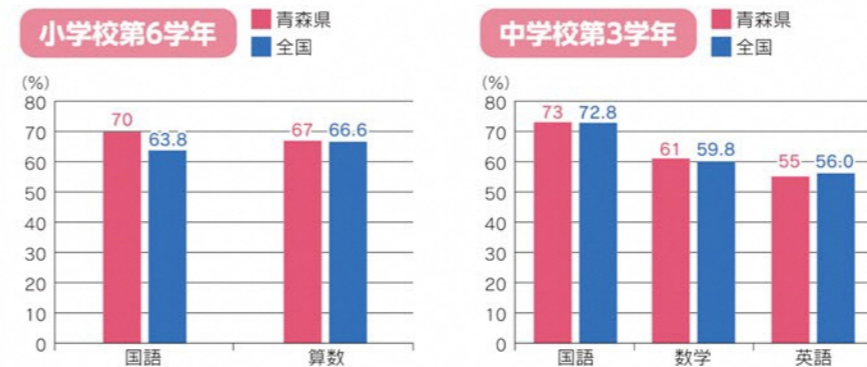
平成31年度(令和元年度)に実施された「全国学力・学習状況調査」と「県学習状況調査」の結果と分析の概要をお知らせします。県教育委員会では、市町村教育委員会と連携し、各学校が行う「確かな学力」の向上のための取組を支援します。

文部科学省「全国学力・学習状況調査」

平成31年4月18日(木)実施

小学校第6学年は、国語及び算数の2教科、中学校第3学年は、国語、数学及び英語の3教科で調査を実施しました。今年度は初めて中学校で英語が実施されるとともに、知識や技能を問う問題と知識や技能を活用する力を問う問題が一体的に問われる調査が行われました。さらに学習意欲や学習方法等について、児童生徒や学校に尋ねる質問紙調査も行われました。

今回の調査結果から、本県の小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒の学力は、全ての教科で平均正答率が全国平均を上回るか、同程度であり、おおむね良好な状況でした。

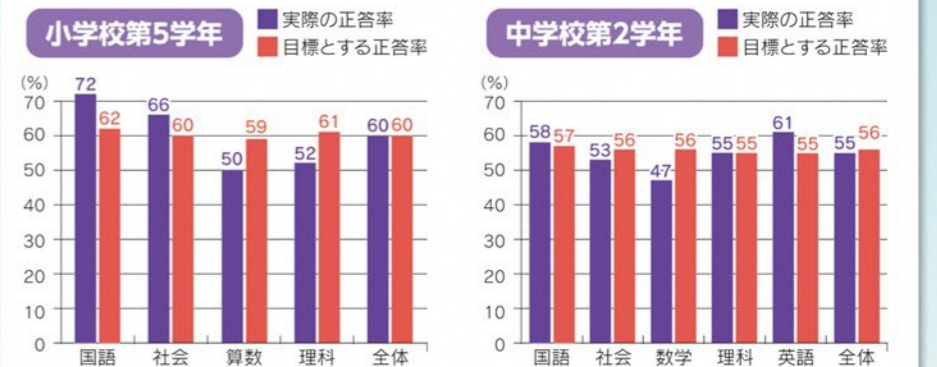


県教育委員会「県学習状況調査」

令和元年8月28日(水)実施

小学校第5学年は、国語・社会・算数・理科の4教科、中学校第2学年は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科で調査を実施しました。本県児童生徒の課題として、知識や技能等を活用する力が挙げられていることから、「活用に関する問題」を全問題数の半数程度出題しました。

今回の調査結果から、本県の小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒の学力は、教科や内容によって成果や課題はあるものの、おおむね良好な状況でした。



家庭学習への取組については、県教育委員会HPで『青森県小・中学生の学ぶ意欲を高めるために』と検索してみてください。

☎ 学校教育課 小中学校指導グループ TEL.017-734-9895